

2/12
(火)

企業見学ツアー初開催！

13日にかけて、市内の事業所・工場を中心に巡る「企業見学ツアー」が初開催されました。これは、就職を検討している大学生などを対象に、市内企業の見学や地元グルメを楽しんでもらうことで、市への興味・関心を高め、将来、矢板市を就職先の候補地としてもらうきっかけをつくることを目的に開催されたものです。

本ツアーには県内の大学生を中心に、都内からの移住検討者も含めた約30人が参加し、普段なかなか見ることのできない工場内などを興味深そうに見学していました。



2/24
(日)

交流の場として

ココマチ内にある「こどものひろば」で、3周年イベントが行われました。当日は、市内外から多くの親子連れが訪れ、ダーツや的入れ、輪投げなどのアトラクションを楽しみました。

「こどものひろば」を運営する(株)街なかにぎわい館の代田代表は「ここは、子どもが安全に遊ぶことができる場所としてだけでなく、子育て世代の交流の場という大切な機能を持っている。多くの方に利用してもらい、交流の輪を広げてもらいたい」と話していました。



2/24
(日)

私たちにできること

文化会館大ホールで「矢板市人権フェスタ」が開かれ、平成30年度全国中学生人権作文コンテスト栃木大会で最優秀賞を受賞した矢板中学校生徒の作品が朗読されたほか、元日本テレビアナウンサーの藪本 雅子さんが「共に生きる社会へ〜テレビ報道現場からの報告」と題し、講演を行いました。

藪本さんは「誰もが堂々と胸を張って生きていける社会にするために、私たちができることを考えよう」と会場に集まった方たちに言葉を投げ掛けていました。



2/28
(木)

「花」やかな雛飾り

泉公民館で、2月26日(火)から3月3日(日)にかけて、つるし雛や雛人形などを展示した「ひなまつり」が開催されました。会場には、泉保育所児童のかわいらしいおひなさまや公民館の自主講座生などが「花」をテーマに制作した100点を超える作品が所狭しと並びました。

この日に行われた「ひなまつりコンサート」では、エレクトーン奏者の石下 有美さんによる華麗な演奏が披露されたほか、泉保育所の児童や地域の方たちが一緒になって合唱するなど、会場は「花」やかな雰囲気になりました。



矢板の冬の文化祭

2月23日(土)・24日(日)、文化会館周辺で、市民講座生の日ごろの成果を発表する場として「フェスタ in YAITA」が行われました。このイベントは、毎年開催されていますが、今年は市制施行60周年記念事業として、防災に関する講演会や音楽ライブなどの特別企画もあり、例年以上の盛り上がりとなりました。

このほか、カラフルパレットのやいた応援大使就任式や実演会、各種模擬店、図書館寄席、オーケストラによる演奏会なども行われ、会場周辺はたくさんのお客さんでにぎわいをみせました。



3/3
(日)

消防団・春の訓練

市内各地で、春の全国火災予防運動に伴う消防団の訓練が行われました。矢板消防署では、本部および第2分団の団員が大規模災害発生時に対応するための、トリアージ(※)や応急救護法を学んだほか、小型動力ポンプやエンジンカッター、チェーンソーなどの資機材の取り扱いを矢板消防署員の指導のもと訓練を行いました。

訓練に参加した団員からは「大規模災害など有事の際、今日学んだことを活かし、スムーズな初動体制の確保や救護活動に役立てたい」と頼もしい言葉がありました。



手順を確認しながらトリアージの仕方を学ぶ団員
エンジンカッターを使い鉄管を切断する作業を行う団員
▼

※トリアージとは…
大事故・災害などで同時に多数の患者が出た時に、患者の重症度に基づいて、治療の優先度を決定して選別を行うことをいいます。

3/9
(土)

全国に名を轟かせ！

文化会館で、野州轟一番太鼓ジュニアが、3月末に行われる全国大会に向けた練習を行いました。ジュニアチームは、昨年11月に行われた第21回日本太鼓ジュニアコンクール栃木県予選会で、創設以来9度目の挑戦で初の優勝を収め、全国大会の切符を手に入れました。この日は、腕の振りや間の取り方など入念な確認を行いながら練習に励んでいました。

チームの代表は「長年努力してきた成果が認められてうれしい。全国大会では太鼓を精一杯打ち込み、私たちの名前を全国に轟かせたい」と意気込みを話してくれました。

